株主メモ Shareholder Memo

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当　毎年3月31日 中間配当を行う場合　毎年9月30日 （その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。）
公告方法	電子公告の方法により行います。 ホームページアドレス　http://www.honyakuctr.com ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
電話照会先	電話　0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
上場証券取引所	東京証券取引所　JASDAQ スタンダード
証券コード	2483

■住所変更等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページのご案内

■サービスサイト
http://www.honyakuctr.com

■コーポレートサイト（IRサイト）
http://www.honyakuctr.com/corporate/

サービスサイト右上の「**企業・IR情報**」をクリック

▼サービスサイト

トップページ

▼コーポレートサイト

トップページ

当社ホームページにおきましても最新のトピックスをはじめ、様々な情報をご案内しております。IR情報はコーポレートサイトからご利用ください。

IR情報ページ

詳しくは ▶▶▶ 翻訳センター　検索

見通しに関する注意事項

この報告書には、翻訳センターグループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で入手可能な情報から判断した見込みであります。世界経済の動向、税制や諸制度などに関するリスクや不確実性を際限なく含んでおり、実際の業績や結果は当社の見込みと異なる可能性があることをご承知おきください。

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C020493

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

株式会社 翻訳センター
経営企画室
Tel：03-6369-9963
e-mail：info@honyakuctr.co.jp

UD FONT

Made in Fukushima
この印刷物は、福島県内の印刷会社にデザイン制作及び製造を依頼し発行したものです

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

株式会社 翻訳センター

第31期 期末のご報告

2016年4月1日～2017年3月31日

代表取締役社長

東 郁男

Ikuo Higashi

中期経営計画の総仕上げとなる当期は、さらなる持続的成長を目指して専門性高度化や顧客満足を追求し、人材育成をはじめとしたグループシナジーを強化してまいります。

Q1 市場環境についてお聞かせください。

企業のグローバル展開に伴う需要は引き続き堅調であり、インバウンド消費は一巡したものの、翻訳・通訳需要は引き続き好調に推移しました。翻訳業界の環境は、IT系などの国内異業種企業や外資系翻訳会社の参入もあり、競争は一層激しさを増していますが、市場活性化は逆に成長のチャンスでもあります。当社グループは、品質、コスト、納期のすべての点でお客さまニーズに対応できる競争優位性を発揮しています。

Q2 期末の業績はいかがでしたか。

コアビジネスである翻訳事業が堅調に推移していることに加え、大型国際会議の運営によりコンベンション事業の売上が大幅に増加した結果、当社グループの売上高は10,218百万円（前期比11.3%増）、営業利益は697百万円（同30.3%増）、経常利益は699百万円（同30.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は444百万円（前期に投資有価証券売却益を計上していたため同3.2%増）と過去最高を更新しました。

翻訳事業の特許分野では企業の知的財産関連部署からの受注が好調に推移しました。医薬分野は外資製薬会社からの安定的受注に加え、国内製薬会社における受注拡大や、CRO（医薬品開発受託機関）の長期案件を獲得し、売上が伸長しています。工業・ローカライゼーション分野では情報通信関連企業との取引が好調に推移していることに加え、鉄鋼関連企業の大型案件獲得により増収となりました。金融・法務分野はIR関連資料の新規案件獲得、企業の管理系部署における受注拡大や金融機関からの長期案件獲得が奏功しています。派遣事業は、金融、ITサービス関連企業からの求人が順調に増加し、好調に推移しました。通訳事業は、IR通訳や医薬品関連企業からの堅調な受注に加え、外資通信機器メーカーから大型案件を獲得し、増収となりました。また語学教育事業は、通訳者・翻訳者育成講座の申込みが計画を下回ったことから、売上を伸ばすことができませんでした。コンベンション事業は、「第99回ライオンズクラブ国際大会」をはじめ「第40回国際外科学会世界総会」など複数の大型国際会議の受託・運営が寄与し、大幅な増収になりました。その他事業についてはグループ会社である（株）外国出願支援サービスが好調に推移し、売上増となりました。

Q3 第三次中期経営計画の進捗についてご説明ください。

三つの重点施策のうち、まず「顧客満足度向上のための分野特化戦略」は、分野別のマーケティングを強化し、サービスを向上させることでシェア拡大を図るものですが、品質、コスト、納期面での当社グループの対応力が評価され、高い顧客満足度を得ています。

二つ目の「ビジネスプロセスの最適化による生産性向上」は、ICTや翻訳支援ツールの活用といったハード面と、ナレッジの共有といったソフト面が両輪となって成果を上げています。ソフト面では、各分野の専門家や経験豊富な社員による社内研修の開催により、登録翻訳者・通訳者だけでなく、お客様に対応する社員個々の専門性向上も実現しつつあります。

三つ目の「ランゲージサービスにおけるグループシナジーの最大化」については、2012年にグループ化した（株）アイ・エス・エスがコンベンション事業で収益に大きく貢献したほか、同一顧客に翻訳、通訳、派遣などの各サービスを提供するなど、クロスセルも着実に実績を積み上げています。

Q4 計画の総仕上げの年となる2017年の取り組みとは。

今期（2018年3月期）はいよいよ中期経営計画の総仕上げの年となります。今後の翻訳・通訳サービスは、海外インフラ受注や国際会議をはじめとするビジネスイベント（MICE）誘致活動など、一部国策と連動し、引き続き需要は拡大傾向にあります。当社グループが外国語ビジネスの総合サプライヤーとして着実に成長を果たすためにも、次期計画を見据えながら、専門性の高度化とサービスラインナップの充実を重点課題として取り組みます。これまで翻訳事業の医薬分野や特許分野で培った専門性を活かし、メディカルライティング事業、外国出願支援事業への展開も果たしましたが、さらに各事業、分野においてお客様のニーズを探り、社内に蓄積したノウハウを活用して、サービスの深化・拡充に取り組んでいきたいと考えています。

Q5 社会的使命を果たすために。

当社グループは各事業を通じフルラインのランゲージサービスを提供していますが、それにはパートナーである翻訳者・通訳者の存在が不可欠です。優秀な人材の確保に努めると同時に、アイ・エス・エス・インスティテュートによる語学教育事業を軸に、翻訳センターの翻訳事業、アイ・エス・エスの通訳事業でのOJT（実務研修）による能力開発、アイ・エス・エスの派遣事業による就業機会の提供など、グループ全体で翻訳者・通訳者のキャリアパス支援に取り組んでいます。優秀な人材の育成、質の高いサービスの提供により、企業のグローバル展開を支援することが当社グループの使命だと考えています。

今後も社会のニーズを充たす「言葉のインフラ」を担う会社として、社会的使命や責任を強く意識するとともに、ステークホルダーの皆さまから評価される企業として持続的成長を目指してまいります。

【ISSインスティテュート創立50周年特別企画】

翻訳者・通訳者を育成するために

── 翻訳センターグループの成長を支える人材リソース ──

翻訳センターグループの(株)アイ・エス・エス・インスティテュート(ISSインスティテュート)は、
翻訳者・通訳者を育てる専門スクールとして半世紀にわたり、多くの優れた人材を輩出してきました。
その一部はグループで活躍し、顧客の皆様から高い評価をいただいています。
今回は同社マネージャーの亀井千秋さんに、グループにおけるISSインスティテュートの役割について伺いました。

Q. 創立50周年という歴史は成長の履歴でもありますね。

(株)アイ・エス・エス(ISS)の通訳者・翻訳者養成部門として1966年に創立以来、高度成長やグローバル化の波に乗ってゆるやかな成長を続けてきました。語学学校も数多く生まれた中で、第一線のスクールとして成長できた理由のひとつは、高い専門性にあると思います。当スクールはいわゆる「英会話学校」と違い、現場で通用するプロの通訳者や翻訳者を育てる場ですから、実践力が身に着くプログラムを重視しています。受講前にまずレベルチェックテストを受けていただきますが、判定によっては希望のクラスにご案内できない場合もありますし、受講しても成績が基準に達しなければ次のレベル(上級レベル)に進級できません。カリキュラムも厳しいですが、それだけに受講生のモチベーションも高く、皆さん真剣度が違います。

マネージャー
亀井千秋さん
通訳コース教務コーディネーターを経て、現在ISSインスティテュート(東京校・横浜校)のスクールマネージャーとして、英語および中国語の通訳者・翻訳者養成コースの運営に携わる。

Q. 受講生はどのような層の方が多いですか。

会社員の方が大半を占めますが、大学生の方や会社を辞めてこられた方、語学力はあるけれどもライフステージの変化で自宅にいた方、リタイアした60代の方もいらっしゃいます。さまざまな年齢・立場の方がいますが、プロを目指している方がほとんどです。また、企業から研修目的で派遣される方や職務上必要な語学力を強化するために受講するビジネスパーソンも多く、既にプロとして活躍している方が、さらなるスキルアップや知識の充実を目的に受講するケースもあります。

ISSインスティテュート 会社概要

商号	株式会社 アイ・エス・エス・インスティテュート	
代表取締役	二宮 俊一郎	
所在地・電話番号	東京校	東京都千代田区麹町3-1-1 麹町311ビル4階 TEL. 03-3265-7103
	横浜校	横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル8階 TEL. 045-325-3333
事業内容	英語・中国語の通訳者・翻訳者・ ビジネスコミュニケーション力養成	

グループ全体で受講生のキャリアアップを支援

ISSインスティテュートはプロへの登竜門として人材を養成し、翻訳センターやISS、ランゲージワンなどグループ各事業に供給。各事業はOJTの機会を提供し、受講生も学んだことを実地に活かす仕組みが整っています。

※キャリアパスの一例

Q. スクールの特徴について教えてください。

教育・OJT(実務研修)の提供・修了後のキャリアサポートを一貫して行い、受講生のキャリアプラン実現を、グループ全体で支援しています。まず、基本スキル習得のための教育を行います。入学時点で一定レベルの語学力は皆さんもっていますが、翻訳や通訳の業界で必要な高度な語学運用力(外国語・日本語)や訳出の正確さ(翻訳・通訳スキル)、知識(業界・専門分野の知識)などを徹底的に学びます。

次にOJTの充実が挙げられます。中上級レベルの受講生には、グループの(株)翻訳センターやISS、ランゲージワン(株)にて「現場対応力」を身につける機会を提供しています。たとえば翻訳センターでは研修生として登録後、品質管理担当者の指導の元、社内でビジネスレポートやマニュアルなどのチェック(校正)を行います。実際の成果物(翻訳文)に触れながら業務の流れを体験し、最新の知識や表現などを体得することができます。ISSの人材サービス部門では、登録後、派遣社員として翻訳・通訳業務に従事し実務経験を積みながらスキルアップを図ることができます。通訳部門では国際見本市の出展企業のブース付き通訳、ランゲージワンでは電話通訳など実地に臨んでもらいます。

大切な点は、語学力が高くても、独善的な翻訳・通訳は「語学サービスという仕事」ではないということ。読む相手、聞く相手がいてのサービスですから、正確さは必要ですが柔軟性やコミュニケーション力も求められます。それが現場対応力であり、翻訳センターの「言葉のコンシェルジュ」という仕事です。

通訳コースの授業では、LL*教室、ヘッドセットを使用して逐次および同時通訳の実践訓練を行う。

翻訳コースの授業風景。通学クラスのほかにインターネットクラスもある。

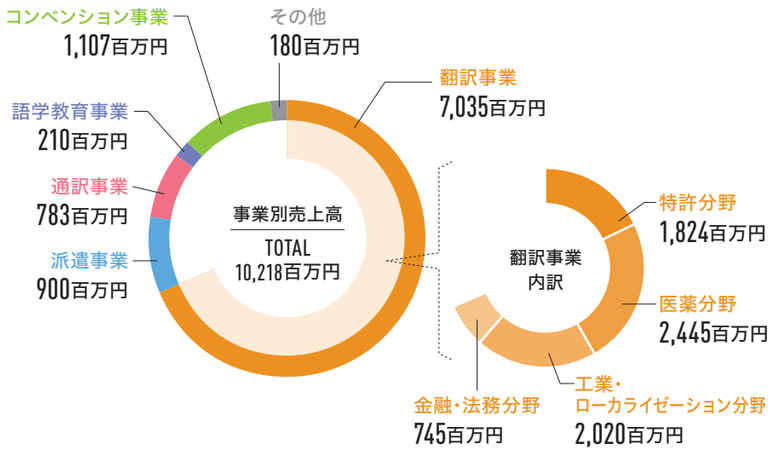
Q. グループのシナジー効果としてはいかがですか。

翻訳コースの受講生には上級クラス修了後、グループ会社のトライアル(プロ翻訳者の登録試験)を紹介していますが、力のある方はOJTからそのままプロとして採用される場合もあり、いわばグループ全体で即戦力となる人材育成をしているといえます。グループはOJTの機会提供の他、実際の現場とマーケットニーズを熟知した経験豊富なスタッフが講師を勤める場合もあります。現場の最先端の情報をカリキュラムに反映することで育成事業に参加し、事業分野の専門知識と高度な翻訳・通訳スキルをもった人材リソースを確保します。人材こそが私たちグループの成長基盤ですから、競争優位性を持ち続けられるのだと思います。そして、優秀な翻訳者・通訳者は社会全体の財産であり、育成、活躍の場を提供することが当社グループにできる社会貢献だと思います。

＊LLとは、ランゲージ・ラボラトリー(Language Laboratory)の略

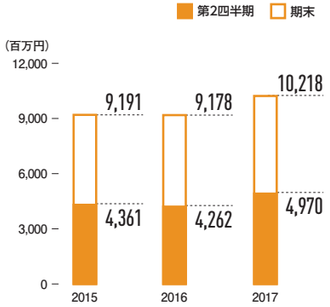
業績ハイライト Financial Highlights

事業別売上高（2017年3月期）

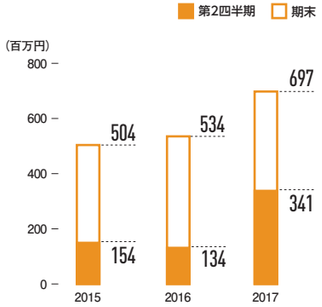


設立	31年
グループ会社を含めた会社数	7社
取扱言語	78言語
顧客数	4,700社
登録者数	4,428名

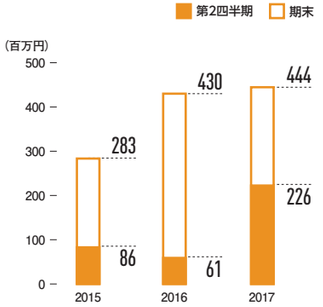
>売上高



>営業利益



>当期純利益／親会社株主に帰属する当期純利益



※会計基準改正に伴う当期純利益の概念及び科目名の変更により、2016年3月以降より「親会社株主に帰属する当期純利益」となります。

株式の状況／会社概要 Stock Information / Corporate Data

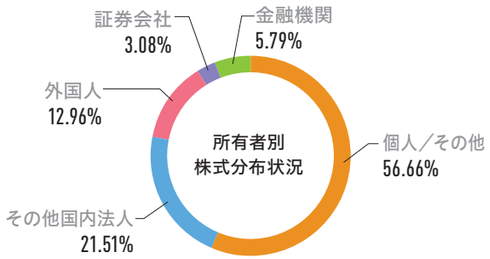
株式の状況（2017.3.31現在）

発行可能株式総数	5,140,000株
発行済株式総数	1,684,500株 （自己株式はありません）
株主数	2,511名
単元株式数	100株

大株主（上位10名）

株主名	株式数（株）
エムスリー株式会社	345,000
BNYM TREATY DTT 10	128,100
東　郁男	76,200
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	69,400
淺見　和宏	44,400
翻訳センター従業員持株会	32,100
角田　輝久	27,700
二宮　俊一郎	25,900
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	25,000
礒野　由美子	24,800

>株式分布状況



会社概要（2017.3.31現在）

商号	株式会社 翻訳センター
設立	1986年4月
代表者	東　郁男
本社所在地	大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 大阪御堂筋ビル13階
資本金	5億8,844万3,000円
従業員	413名（連結）
事業内容	翻訳サービス業
関係会社	HC Language Solutions, Inc. 株式会社外国出願支援サービス 株式会社アイ・エス・エス 株式会社アイ・エス・エス・インスティテュート 株式会社パナシア ランゲージワン株式会社＊

＊持分法適用会社

役員（2017.3.31現在）

代表取締役社長	東 郁男
取締役	二宮 俊一郎
取締役	中本 宏
社外取締役	山本 淳
常勤監査役	妙中 厚雄
監査役	松村 信夫
監査役	大西 耕太郎